

潮来市の誇れる自然

第81回

全国の大学生たちが参加した公開実習が大盛況！

北浦湖畔（潮来市大生）にある茨城大水槽環境フィールドステーションは、大学生たちが湖の環境問題について体験的に学べる施設として文部科学省に認定されている東日本唯一の臨湖実験所です。夏休み中は毎日のように湖での実習があり、全国から意欲的な学生たちがやってきます。

例えば、8月22～26日の公開実習「巨大湖の生態系と環境問題―霞ヶ浦での調査・実験から理解する―」には、東洋大、筑波大、東京理科大、神戸大、東京海洋大、桜美林大、京都工芸繊維大の学生たち17名が参加しました。この実習では、船での水質やプランクトン、底生動物の調査、岸近くでの魚類調査のあと、研究室での顕微鏡観察、排水処理（活性汚泥法）の実験を体験。さらには霞ヶ浦が海であった数万年前から現在までの環境変遷について学びました。

9月21～23日の公開臨湖実習「追跡―巨大ナマズ―湖沼の外来生物問題の最前線―」には、東京大、東洋大、東京海洋大、お茶の水女子大、埼玉大、富山大、京都大、奈良教育大、九州大、長崎大、鹿児島大の14名が参加しました。この実習の教材は、北アメリカ原産の外来ナマズ（チャネルキャットフィッシュ）です。在来種の生息状況調査を行い、捕獲調査や食性調査を通して外来ナマズの脅威を体感したあと、班別対抗の駆除試験で競い合い、最後に外来ナマズ対策について

も議論しました。

どちらの実習でも、最終日の成果発表会では、湖の環境や生態系の持続的な利用についての議論が大いに盛り上がりました。地域の魅力を体感してもらった良い機会にもなりました。地域のみなさまのご協力により、今夏も無事に実習を終えられました。ご支援いただいた方々に心より感謝申し上げます。茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション

金子誠也・加納光樹



魚類調査中



投網体験



班別対抗駆除試験のスコアボード

潮来市の誇れる文化

第142回

甕森神社の由来並びに風習について

甕森神社は、茨城県緑地環境保全指定地域内にあり、常緑広葉樹の群落にイチヨウ、ヒノキ、榊等が群生しており、自然環境豊かな大生原台地に建立されております。

由緒によると、その昔、東夷征伐の勲、軍隊の露営の地として重きをなし、甕森の地名の由来になったとも謂われます。

祭神武波槌の大神は食産の道を広め、その遺徳を偲び村人達は、十二月一日に裸足で参拝する風習があり、祭事にもその型をとどめており、特筆されるものとあります。

台地への坂を登ると、釜谷の集落が一望できる甕森神社の境内からも、散在する集落の一部が展望され、朝夕に白く光る北浦湖の古の神秘にふれながら、又、ある時は小鳥の囀る大生野が原の平地林に点在する幾多の古墳を仰ぎ見る時、御祭神武波槌の大神の御代に我等先人等の足跡を深く思い浮かべ、脈々と流れる興村の心が現在まで継承されていることに愛郷の念を抱きながら、美しき郷里に住める事を深く誇りとするものであります。

平成十七年集落総会の席上において、甕森神社の拝殿改新案が提案され快く議決され氏子一同、有志一同の深いご理解とともに皆様の寄付金を以って完成され、更に本殿の一部改修も審議されるや、異議なく同意され付随する二社の宮社も新築され、平成の大事業として雄々しく美しく平成十八年



この重要な財産である甕森神社を氏子一同により伝承すると共に、集落を一望出来る甕森神社周辺の自然環境の保全に努めていくことが重要であります。

（参考文献）甕森神社石碑
潮来市文化財保護審議会
委員 岸根 則夫